

現況報告からみた市の公共交通の現状と課題

○人口推移について

全国的な人口減少傾向の中、本市の人口は増加傾向にありますが、木津地域では今後もしばらくは学研開発に伴う人口増加が見込まれるのに対し、加茂地域と山城地域では減少傾向にあるなど、人口の地域偏在が課題となっています。また、人口が増加している木津地域でも高齢化が進行している地区もあり、加茂地域や山城地域では、高齢化率が40%を超えている地区もあります。

○運転免許保有状況について

本市では、平成19(2007)年に「交通安全都市宣言のまち」として、交通安全の普及、啓発に努めるとともに、近年増加する高齢者の運転による交通事故の抑制に向けて、高齢者運転免許自主返納の支援を行っていますが、65歳以上の運転免許保有者の割合は年々増加しており、自主返納できる環境づくりが求められています。

○交通手段について

市民の代表交通手段をみると、自動車の分担率が50.2%と5割を超えており、特に加茂地域では56.0%、山城地域は65.0%と日常の移動手段を自動車に頼らざるを得ない状況にあると考えられます。山城地域では、免許非保有者の34.0%が自動車で移動しており、家族等の送迎に頼っている状況が伺えます。

○鉄道の利用状況について

鉄道の利用者数は、城山台の人口増加及び学研都市線の利便性向上等により、JR木津駅で年々増加しているものの、その他の駅では微増から横ばい、JR加茂駅や上狛駅、近鉄高の原駅は減少傾向にあります。

○路線バスの利用状況について

市内を走る路線バス(奈良交通)は、JR木津駅や加茂駅、近鉄山田川駅や高の原駅を拠点として運行しており、利用者数は、人口が増加している城山台や梅美台、州見台を運行する路線では利用者数が増加しているものの、それ以外の路線は横ばいから減少傾向にあります。

○コミュニティバスの利用状況について

市内での移動は、路線バスを補完する形でそれぞれの地域において市内の住宅地や集落と主要施設・鉄道駅を結ぶコミュニティバス（予約型乗合タクシーを含む）が運行し、市民の日常生活での移動を担っていることから、公共交通空白地を概ねカバーできていると考えられます。しかし、コミュニティバス（予約型乗合タクシーを含む）の利用者数は減少傾向にあり、平成 30（2018）年度の収支率は約 36%、利用者 1 人あたりの運行コストは 500 円となっており、目標である収支率 50%に満たない状態です。

木津地域では、高の原駅・山田川駅・木津駅を結ぶ路線である「きのつバス」が運行しており、年間 213,269 人、1 便あたり 10.5 人と利用が多いものの、利用者数は減少傾向にあります。系統別にみると、木ー1、木ー3は1便あたり約 12 人であるのに比べ、木ー2は約 6 人と利用が少なく、3系統とも平日に比べ、土日の利用が約半減となっています。

加茂地域では、加茂駅・加茂支所を発着する「かもバス」が運行しており、定時定路線の当尾線は、大雨や台風による運休の影響で、平成 29（2017）年度に比べ利用者数が減少し、年間 16,917 人、1 便当たり 2.7 人の利用となっています。春と秋の利用が多く、平日よりも土日の利用が多いことから、浄瑠璃寺や岩船寺等への観光に利用されていることが伺えます。当尾線以外では、通学線は利用が増加していますが、それ以外の路線は横ばいから減少傾向にあります。

山城地域では、南北を結ぶ「やましろバス」が運行しており、木津駅・棚倉駅へ連絡している。山城線は平成 27（2015）年度から増加傾向にありましたが、平成 30（2018）年度は前年よりもわずかながら減少しています。神童子線についても、前年度より減少しています。

木津川市コミュニティバス全路線で利用できる 1 日フリー乗車券の販売数は、平成 24 年度の販売開始から年々増加し、多くの方に利用されており、平成 30（2018）年度は前年度に比べ 1.03 倍増加していますが、今後更なる周知の徹底や販売場所の拡大などが求められます。